2023 年度　　授業概要

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15 回	時間数	30 時間　2 単位	必修・選択	必修	配当学年時期	ST2年　後期

【授業の目的・ねらい】
運動障害性構音障害の評価・訓練および他の発話障害との鑑別について総合的に把握し、臨床に必要な検査や訓練方法および発話補助手段について理解できる。

【実務者経験】
言語聴覚士としてツカザキ病院に勤務、急性期、回復期、外来の失語症、高次脳機能障害･嚥下障害･構音障害分野でのリハビリテーションに従事。

【授業全体の内容の概要】
運動障害性構音障害について総合的に理解し、訓練方法および発話補助手段についても理解する

【授業終了時の達成課題（到達目標）】
構音障害の概要を把握、理解し、臨床場面での適切な検査・評価等できるようになる
国家試験に即した問題を解くことができる

回数	講義内容	準備物(教材)
1	言語聴覚療法の評価診断の手続きを説明できる	テキスト
2	収集する情報の種類を列挙し、模擬的に収集できる	テキスト
3	収集する情報の種類を列挙し、模擬的に収集できる	テキスト
4	収集する情報の種類を列挙し、模擬的に収集できる	テキスト
5	収集した情報から、評価計画を立案できる	テキスト
6	運動障害性構音障害の評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を記述できる	テキスト
7	運動障害性構音障害の評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を記述できる	テキスト
8	運動障害性構音障害の評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を記述できる	テキスト
9	運動障害性構音障害の評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を記述できる	テキスト
10	運動障害性構音障害の評価結果を分析・統合し、個別性のある言語治療計画を記述できる	テキスト
11	運動障害性構音障害のタイプに応じて計画した言語治療を説明し、実施できる	テキスト
12	運動障害性構音障害のタイプに応じて計画した言語治療を説明し、実施できる	テキスト
13	運動障害性構音障害のタイプに応じて計画した言語治療を説明し、実施できる	テキスト
14	運動障害性構音障害のタイプに応じて計画した言語治療を説明し、実施できる	テキスト
15	運動障害性構音障害のタイプに応じて計画した言語治療を説明し、実施できる	テキスト
	定期筆記試験	

【使用教科書・教材・参考書】
ディサースリアの基礎と臨床　第3巻　臨床実用編

【準備学習・時間外学習】
講義前後に毎回の予習、復習が必要。

【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】
試験の結果を100点満点として成績を評価する。
小テストを50点、定期試験を50点として合計100点とする。
60点以上の場合に科目を認定する。